作成者:高西　直正

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
関係法規・制度		美容学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	授業時数／単位	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	高西　直正

授　業　の　概　要

美容師の業務は公衆衛生上の観点から法的規制のもとにあることから、行政機関による指導の下で、法令を遵守した業務遂行の重要性を学び、美容師志望者に対して必要な法的規制の内容・仕組み等を教科書「関係法規・制度」に準拠して学修する。

授業終了時の到達目標

美容業務に対する公衆衛生上における必要な規制内容等の抽象的な事項について、実務上の美容業務の遂行課程での具体的な場面や具体的な事項等として理解し、説明できる

実務経験有無	実務経験内容
無	

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	学修内容
1	関係法規・制度のガイダンス 法制度の概要	関係法規・制度の概要・授業手順、日本における法制度の概要について学修する
2	衛生行政の概要・分類等	衛生行政の概要・分類 衛生行政を担う行政機関について学修する
2	美容師法の目的等	保健所の法的な根拠・役割等と美容師の目的を学修する
3	美容師に関する規定等	美容師に関する法的な規制、美容師試験の概要等を学修する
4	第１次既習部分の復習・確認テスト	既習部分の復習と練習問題Ⅰ（確認テスト）の施行
5	美容師免許等	美容師免許の意義、免許の仕組み、免許の資格条件等を学修する。
6	美容師の美容師法上の義務	美容師業務上遵守すべき事項、免許取得後の変更等の手続きを学修する。
7	行政処分等	美容師に対する行政処分等及び管理美容師制度について学修する。
8	美容所の開設届等	美容所の開設届出等と美容所の検査確認、美容所開設者の地位の承継を学修する。
9	第２次既習部分の復習・確認テスト	既習部分の復習と練習問題Ⅱ（確認テスト）の施行
10	開設者が講ずべき衛生措置等	開設者が常に講じておくべき措置、例外的な美容所以外での業務を学修する
12	環境衛生監視員による立入調査	立入検査、環境衛生環境衛生監視員、法規制違反者等に対する行政処分を学修する
13	不利益処分・罰則等	不利益処分・審査手続等、美容師法の罰則・両罰規定を学修する

14	美容業の関係法規	美容業の運営・衛生・消費者保護等に関連する法律を学修する
15	第3次既習部分の復習・確認テスト	既習部分の復習と練習問題Ⅲ（確認テスト）の施行

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
関係法規・制度　公益社団法人日本理容美容教育センター	確認テスト 期末試験	30.0% 70.0%	

作成者:中村　康彦

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
衛生管理（前期）		美容学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	中村　康彦

授　業　の　概　要

公衆衛生とは何か。公衆衛生の実態・保健所の役割、保健についての基礎知識を環境衛生について、健康を維持するためには、生活習慣の適正化を図る。必要がある事なども学修する。衛生分野を学修し、併せて美容業を修得する。

授業終了時の到達目標

美容業は公衆衛生の向上に努めなければならない、そのため知識・理解を深め美に関わる職業人の自覚を作る。
環境が及ぼす健康の影響を知ることで、社会人として適切な行動を修得。

実務経験有無	実務経験内容
無	

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	学修内容
1	公衆衛生の概要①	美容師にとって欠かすことのできない公衆衛生について考えるとともに公衆衛生の発展と歴史を学ぶ
2	公衆衛生の概要② 美容師と公衆衛生　保健所と美容業	理容師・美容師と公衆衛生、保健所と理容業・美容業の関わりを理解する。
3	保健① 母子保健	母子保健について学ぶ
4	保健② 成人・高齢者保健	死亡率・平均寿命・生活習慣病について理解を深める。
5	保健③ 成人・高齢者保健	健康増進対策・がん・循環器疾患・糖尿病について理解をする。
6	保健④ 成人・高齢者保健	CODP・アルコール・身体活動等について 高齢者の保健と福祉について理解する
7	公衆衛生まとめ　確認テスト	公衆衛生について小テスト
8	環境衛生① 環境衛生の概要	環境衛生の概要、目的と意義、活動について理解を深める。
9	環境衛生② 空気環境	空気と健康について理解を深める。
10	環境衛生③ 衣服・住居の衛生	衣服、食物、住居と健康との関わりについて。 体温調節、採光と照明・換気・冷暖房。
11	環境衛生④ 上・下水道と廃棄物	上下水供給　一般廃棄物・産業廃棄物。
12	環境衛生⑤ 衛生害虫・環境保全	衛生害虫　ネズミ　環境保全　水質汚濁。
13	環境衛生⑥ 環境衛生まとめ	環境衛生についての理解を深めるため小テスト

14	公衆衛生・環境衛生のまとめ①	公衆衛生の復習　美容師試験過去問から学ぶ
15	公衆衛生・環境衛生のまとめ②	環境衛生の復習　美容師試験過去問から学ぶ

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
衛生管理 公益社団法人　日本理容美容教育センター	期末試験 確認テスト	70.0% 30.0%	授業の前後には、予習復習をして習熟を図る事。

作成者:中村　康彦

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
衛生管理（後期）		美容学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	中村　康彦

授　業　の　概　要

生活の中に関連する疾病の原因も歴史から紐解き、法律と人が貢献している過去を知る。微生物の種類・構造・生態・特徴を理解し、感染症についても学修する。併せて自分自身でできる予防法も考察する。

授業終了時の到達目標

感染症の原因である微生物の理解をすることにより、感染症罹患者及び生活環境に対して、適切な対処方法を取ることができるようになる。新興感染症・再興感染症に関しても理解を深め、これらの理解に基づき、安全で適切な接客方法が考え付くよう修得する。

実務経験有無	実務経験内容
無	

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	学修内容
1	感染症総論 人と感染症①	疾病の歴史、感染症発見の歴史、感染症と法律について理解する。
2	感染症総論 人と感染症②	感染症の分類について①（法律上の分類）
3	感染症総論 人と感染症③	感染症の分類について② （病原体の侵入経路の分類・病原体別の分類）
4	感染症総論 病原微生物①	病原微生物について理解する （微生物の種類・形・おおきさ・構造）
5	感染症総論 病原微生物②	微生物の増殖と環境の影響について理解する
6	感染症総論 病原微生物③	感染症の予防について理解する。 （予防・常在細菌叢・免疫）
7	感染症総論 病原微生物④	感染症発生の要因について理解をする。
8	感染症総論 病原微生物⑤	感染症の予防の三原則について理解する 感染症総論の復習
9	感染症総論	感染症総論　小テスト
10	感染症の各論 主な感染症①	空気・飛沫を介して感染する感染症①
11	感染症の各論 主な感染症②	空気・飛沫を介して感染する感染症②
12	感染症の各論 主な感染症③	飲食物・血液等を介して感染する感染症 動物・節足動物を介して感染する感染症
13	感染症の各論 主な感染症④	具体的な対策について理解をする。

14	感染症各論のまとめ	感染症についてのまとめ　、小テスト
15	公衆衛生・環境衛生、感染症まとめ	感染症全般についてのまとめ　試験対策

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
衛生管理 公益社団法人　日本理容美容教育センター	期末試験 確認テスト	70.0% 30.0%	授業の前後には、予習復習をして習熟を図る事。

作成者:小島　光世

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保健		美容学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	授業時数／単位	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	小島　光世

授　業　の　概　要

これから学ぶ「保健」は「健康を保つ」という意味です。健康には身体的な意味のほかに、精神的、社会的な健康という面もあります。非常に多面的ではありますが、この授業では人間の美の源泉ともいえる身体的な健康について学んでいきます。
理容師・美容師は、頭や顔を中心とする人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業なので、一般の人以上に解剖学や生理学に関する知識を深めていきましょう。

授業終了時の到達目標

第１編では、人体の構造や機能を全体的に学びその知識を習得することを目標とします。
第２編では、理容師・美容師の皮膚や毛髪に鋭利な刃物や薬品などを使用する業務の特徴から、とくに皮膚や毛髪に関する深い知識を学び習得することを目標とします。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで20年近く勤務し、また5年以上店長として運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修

まずテキストを読み、理容・美容保健を学ぶ大きな流れを把握すること。
講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	学修内容
1	第1編第1章　頭部、顔部、頸部の体表解剖学	はじめに　保健を学ぶにあたって、人体各部の名称について学修する。
2	第1編第1章　頭部、顔部、頸部の体表解剖学②	頭頸部の体表解剖学について学修する。
3	第1編第2章　骨格器系	骨の種類と構造、骨の連結について学修する。
4	第1編第2章　骨格器系②	骨格器系とそのはたらきについて学修する。練習問題
5	第1編第3章　筋系	筋の種類とその特徴、主な骨格筋とそのはたらきについて学修する。
6	第1編　第1章～第3章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P12～P36） テスト後、解答・解説。
7	第1編第4章　神経系	神経系の成り立ち、中枢神経系とそのはたらき、末梢神経系とそのはたらきについて学修する。
8	第1編第5章　感覚器系	視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚について学修する。
9	第1編　第4章～第5章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P38～P47） テスト後、解答・解説。
10	第1編第6章　血液と免疫系	血液のあらまし、免疫のあらまし、アレルギーについて学修する。
11	第1編第6章　血液と免疫系	血液のあらまし、免疫のあらまし、アレルギーについて学修する。
12	第1編第7章　循環器系	心臓のあらまし、血液循環の仕組み、血液の循環経路について学修する。
13	第1編第7章　循環器系②	血液の循環経路②、リンパ管系の仕組みとはたらきについて学修する。
14	第1編第9章　消化器系	消化器系のあらまし、仕組み、はたらきについて学修する。

15	第1編　第6章～第8章　まとめ	復習テスト　出題範囲（P48～P59）テスト後、解答・解説。

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
理容・美容保健（公益社団法人日本理容美容教育センター監修） ワークブック （公益社団法人日本理容美容教育センター監修）	確認テスト 期末試験	30.0% 70.0%	

作成者:小島　光世

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保健		美容学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	授業時数／単位	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	小島　光世

授　業　の　概　要

これから学ぶ「保健」は「健康を保つ」という意味です。健康には身体的な意味のほかに、精神的、社会的な健康という面もあります。非常に多面的ではありますが、この授業では人間の美の源泉ともいえる身体的な健康について学んでいきます。
理容師・美容師は、頭や顔を中心とする人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業なので、一般の人以上に解剖学や生理学に関する知識を深めていきましょう。

授業終了時の到達目標

第１編では、人体の構造や機能を全体的に学びその知識を習得することを目標とします。
第２編では、理容師・美容師の皮膚や毛髪に鋭利な刃物や薬品などを使用する業務の特徴から、とくに皮膚や毛髪に関する深い知識を学び習得することを目標とします。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで20年近く勤務し、また5年以上店長として運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修

まずテキストを読み、理容・美容保健を学ぶ大きな流れを把握すること。
講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	学修内容
1	第2編第1章　皮膚の構造	皮膚の表面、皮膚の断面、表皮について学修する。
2	第2編第1章　皮膚の構造②	表皮と真皮の境、真皮、皮下組織、皮膚の部位差について学修する。
3	第2編1章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P60～P75） テスト後、解答・解説。
4	第2編第2章　皮膚付属器官の構造	毛について学修する。
5	第2編第2章　皮膚付属器官の構造②	脂腺、汗腺、爪について学修する。
6	第2編第2章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P78～P87） テスト後、解答・解説。
7	第2編第3章　皮膚の循環器系と神経系	皮膚の血管、皮膚のリンパ管、皮膚の神経について学修する。
8	第2編第4章　皮膚と皮膚付属器官の生理機能	対外保護作用、体温調節作用について学修する。
9	第2編第4章　皮膚と皮膚付属器官の生理機能②	知覚作用と皮膚反射、分泌排泄作用、呼吸作用について学修する。
10	第2編第4章　皮膚と皮膚付属器官の生理機能③	吸収作用、貯蔵作用、免疫・解毒・排除作用、再生作用、毛のはたらき、爪のはたらきについて学修する。
11	第2編　第3章～第4章　まとめ	確認テスト テスト後、解答・解説。
12	第1編　第1章～第5章　まとめ	確認テスト テスト後、解答・解説。
13	第1編　第6章～第9章　まとめ	確認テスト テスト後、解答・解説。
14	第1編第1章～第2編第4章　まとめ	確認テスト テスト後、解答・解説。

15	第1編第1章～第2編第4章　まとめ	確認テスト テスト後、解答・解説。

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
理容・美容保健（公益社団法人日本理容美容教育センター監修） ワークブック （公益社団法人日本理容美容教育センター監修）	確認テスト 期末試験	30.0% 70.0%	

作成者:越川　司朗

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
香粧品化学		美容学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	授業時数／単位	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	越川　司朗

授　業　の　概　要

理容・美容の技術を行う際、器具と同様に多用するものが香粧品です。
香粧品とはシャンプー剤、スキンケア剤、カラーリング・パーマ剤等のことで、これらはお客様の髪、肌、爪などの様々な部位において直接使用します。そのため使い方によっては重大な損傷をあたえる事故につながることもあります。この授業では美容師として必要な、香粧品の性状や使い分け、社会的な意義や法的な根拠、安全性をどのように担保しているかというところまで学んでいきます。

授業終了時の到達目標

香粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的のほか、どのような薬品が香粧品に属するのか、その定義、社会的意義や特性、法的な根拠、製品の安定性も含めた安全性についての知識を習得する。
なお、つけまつ毛やまつ毛エクステンション、つけ爪等のネイル製品は香粧品ではないが、身体に直接装着するものであり、つけ外しの容易な装飾品とは異なり香粧品に準ずるものです。そのため、これらについても香粧品と同様に材料と使用方法について知識を習得していきます。

実務経験有無	実務経験内容
無	

時間外に必要な学修

まずテキストを読み、香粧品を学ぶ大きな流れを把握すること。
講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	学修内容
1	第2編　香粧品各論 第1章 1節 2節	クレンジング香粧品について学修する。
2	3節　コンディショニング用香粧品	クリーム・乳液、その他の基礎香粧品について学修する。
3	4節　トリートメント用香粧品	トリートメント用香粧品の種類と特性，機能などについて学修する。
4	第2章　メイクアップ製品 1節　2節　3節	ポイントメイクアップ香粧品，特にベースメイクアップを中心に学修する。
5	4節 5節 6節　7節	ポイントメイクアップ香粧品，特に目周辺・爪ついて学修する。
6	1章・2章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P97～P146） テスト後、解答・解説。
7	第3章　ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスキャルプケア製品 1節　2節	ヘアコンディショニング香粧品について学修する。
8	3節　ヘアスタイリング料	スタイリング料について学修する。
9	4節　パーマ剤	パーマ剤について学修する。
10	4節　パーマ剤（続き） 5節　ヘアカラー製品	パーマ剤について学修する。 ヘアカラー製品について学修する。
11	5節　ヘアカラー製品（続き） 6節　スキャルプケア製品	ヘアカラー製品について学修する。スキャルプケア製品について学修する。
12	6節　スキャルプケア製品（続き） 3章学習内容のまとめ	スキャルプケア製品について学修する。 学修内容総括
13	3章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P147～P186） テスト後、解答・解説。

14	第1編　まとめ	確認テスト　出題範囲(P9～P95) テスト後、解答・解説。
15	第2編　まとめ	確認テスト　出題範囲(P97～P186) テスト後、解答・解説。

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
香粧品化学 (公社)日本理容美容教育センター	確認テスト 期末試験	30.0% 70.0%	講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

作成者:泉谷　愛子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
文化論		美容学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	泉谷愛子

授　業　の　概　要

人の歴史の最古から、理容、美容がかかわってきたことを学ぶことは、今を知るためにとても重要である。日本と西洋、それぞれの歴史の中にみる理容、美容は、各時代の人々が、どのような時代背景の中で、どのような美しさを求めたのかを知ることができる。これらの知識が今求められている「美しさ」の意味を知る手掛かりとなることを学修する。

授業終了時の到達目標

ここで学ぶ文化論の中には、コンセンスを得るためのヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在している。現代美容までの歴史の背景を理解し説明もできる。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで15年以上サロンの運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	日本の理容業、美容業の歴史	日本のあらましを知り、現代の理容、美容師がどのように確立されたかを学修する。
2	ファッション文化史　日本編 縄文、弥生、古墳時代	日本列島に人が住みはじめたのは、今から4万年ほど前の氷河期。当時の発掘資料や文献から学修する。
3	ファッション文化史　日本編 近代	幕末～明治時代　髷から断髪へ。文明開化の始まりを学修する。
4	ファッション文化史　日本編 近代	明治時代の美容文化について学修する。
5	ファッション文化史　日本編 近代	大正時代の美容文化について学修する。
6	ファッション文化史　日本編 近代	戦時体制が強化されている時期のヘアスタイルやファッションについて学修する。
7	ファッション文化史　日本編 近代	戦時体制が強化されている時期のヘアスタイルやファッションについて学修する。
8	ファッション文化史　日本編 近代	戦時体制が強化されている時期のヘアスタイルやファッションについて学修する。
9	ファッション文化史　日本編 現代Ⅰ	欧米文化が色濃く表れている終戦後の昭和時代について学修する。
10	ファッション文化史　日本編 現代Ⅱ	1960年以降の美容に関する流行について学修する。
11	ファッション文化史　日本編 現代Ⅲ	1970年以降の美容に関する流行について学修する。
12	ファッション文化史　日本編 現代Ⅳ	1980年以降の美容に関する流行について学修する。
13	ファッション文化史　日本編	1990年～2000年以降の美容に関する流行について学修する。

14	礼装の種類①	和装の礼装について学修する。
15	礼装の種類②	洋装の礼装について学修する。

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
文化論 (公社)日本理容美容教育センター教科書	確認テスト 期末試験	20.0% 80.0%	前回の復習を行う 小テストの問題は全問正解できるようになるまで反復練習する

作成者:表　康子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容技術理論（前期）		美容学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60単位時間）	必須	表康子

授　業　の　概　要

技術にはその裏付けとなる理論が必ずあります。
理論とは「なぜそうなるのか」を解明し、技術について整然と筋道を立てて説明できるように組みなおしたものです。つまり理論とは「なぜそうなるのか」を解き明かす大事な鍵なのです。
この授業では技術という扉を開けるこの「鍵」を学んでいきます。

授業終了時の到達目標

美容の教育は理論によるところと感性や感覚に負うところの、いわゆる2つの側面を有しています。
そのうち理論を習得することを目標とします。
具体的には毛髪をどのように巻いたらどのようなウェーブが得られるかといったような、技術に理論的根拠をあたえ、技術の習得を容易にする、いわゆる理論思考の習得です。
それと合わせて技術だけの習得ではなく、公衆衛生の維持向上に貢献する美容師としての知識も美容技術理論で学び習得していきます。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修

まずテキストを読み、技術を積み重ねる大きな流れを把握すること。
講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	序章　美容技術理論を学ぶにあたって	美容理論と美容技術、作業姿勢、人体各部の名称について学修する。
2	１章　美容用具①	美容技術における用具、コーム、ブラシについて学修する。
3	１章　美容用具②	シザーズ、レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッドについて学修する。
4	１章　美容用具③	ローラー、ヘアアイロン、ヘアドライヤー、ヘアスチーマー、遠赤外線機について学修する。
5	１章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P6～P35）　テスト後、解答・解説。
6	２章　シャンプーイング①	シャンプーイング総論について学修する。
7	２章　シャンプーイング②	サイドシャンプー、バックシャンプーについて学修する。
8	２章　シャンプーイング③	リンス・コンディショナー・トリートメントについて学修する。
9	２章　シャンプーイング④	スキャルプトリートメント、ヘッドスパについて学修する。
10	２章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P38～P65）テスト後、解答・解説。
11	３章　ヘアデザイン①	美容とデザイン、錯覚現象について学修する。
12	３章　ヘアデザイン②	デザインの要素、点、線、面について学修する。
13	３章　ヘアデザイン③	デザインの原理、群化の法則、方向、比率について学修する。
14	３章　ヘアデザイン④	シンメトリー、バランス、調和と対比、リズムについて学修する。

15	３章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P68～P88）テスト後、解答・解説。
16	１章～３章まとめ	確認テスト　出題範囲（P6～P88）　　テスト後、解答・解説。
17	４章　ヘアカッティング①	ヘアカッティングとは、シザーズとレザーの扱い方、美容刃物について学修する。
18	４章　ヘアカッティング②	ヘアカッティングの正しい姿勢、ブロッキング、ヘアカッティングの基礎理論について学修する。
19	４章　ヘアカッティング③	ベーシックなカット技法について学修する。
20	４章　ヘアカッティング④	シザーズによるカット技法について学修する。
21	４章　ヘアカッティング⑤	レザーによるカット技法について学修する。
22	４章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P90～P128）テスト後、解答・解説。
23	５章　パーマネントウェービング①	パーマネントウェーブの歴史と現在、パーマネントウェーブの理論について学修する。
24	５章　パーマネントウェービング②	パーマ剤の分類、パーマ剤に関する注意事項について学修する。
25	５章　パーマネントウェービング③	パーマネントウェーブ技術について学修する。
26	５章　パーマネントウェービング④	ワインディングのバリエーションについて学修する。
27	５章　パーマネントウェービング⑤	縮毛矯正（高温整髪用アイロン使用）について学修する。
28	５章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P130～P150）テスト後、解答・解説。
29	４章～５章まとめ	確認テスト　出題範囲（P90～P150）テスト後、解答・解説。
30	１章～５章まとめ	確認テスト　出題範囲（P6～P150）テスト後、解答・解説。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
美容技術理論（公益社団法人日本理容美容教育センター監修） ワークブック（公益社団法人日本理容美容教育センター監修）	確認テスト 期末試験	30.0% 70.0%	

作成者:表　康子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容技術理論（後期）		美容学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	表康子

授　業　の　概　要

技術にはその裏付けとなる理論が必ずあります。
理論とは「なぜそうなるのか」を解明し、技術について整然と筋道を立てて説明できるように組みなおしたものです。つまり理論とは「なぜそうなるのか」を解き明かす大事な鍵なのです。
この授業では技術という扉を開けるこの「鍵」を学んでいきます。

授業終了時の到達目標

美容の教育は理論によるところと感性や感覚に負うところの、いわゆる2つの側面を有しています。
そのうち理論を習得することを目標とします。
具体的には毛髪をどのように巻いたらどのようなウェーブが得られるかといったような、技術に理論的根拠をあたえ、技術の習得を容易にする、いわゆる理論思考の習得です。
それと合わせて技術だけの習得ではなく、公衆衛生の維持向上に貢献する美容師としての知識も美容技術理論で学び習得していきます。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修

まずテキストを読み、技術を積み重ねる大きな流れを把握すること。
講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	6章　ヘアセッティング①	ヘアセッティング、ヘアパーティング、ヘアシェーピング、ヘアカーリングについて学修する。
2	6章　ヘアセッティング②	ヘアカーリングについて学修する。
3	6章　ヘアセッティング③	ヘアウェービングについて学修する。
4	6章　ヘアセッティング④	ヘアウェービングについて学修する。
5	6章　ヘアセッティング⑤	ローラーカーリングについて学修する。
6	6章　ヘアセッティング⑥	ブロードライについて学修する。
7	6章　ヘアセッティング⑦	アイロンセッティング、バックコーミングについて学修する。
8	6章　ヘアセッティング⑧	アップスタイル、ウイッグとヘアピースについて学修する。
9	6章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P152～P213）テスト後、解答・解説。
10	7章　ヘアカラーリング①	ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、ヘアカラーのタイプ別特徴、染毛のメカニズムについて学修する。
11	7章　ヘアカラーリング②	色の基本、毛髪のレベルとアンダートーン、パッチテストについて学修する。
12	7章　ヘアカラーリング③	染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤（アルカリ性タイプカラー）の技術手順について学修する。
13	7章　ヘアカラーリング④	酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ（脱色）、シャンプー剤・ヘアトリートメント剤の構成成分について学修する。
14	7章　まとめ	確認テスト　出題範囲（P216～P243）テスト後、解答・解説。

15	1章～7章まとめ	確認テスト　出題範囲（P6～P243）テスト後、解答・解説。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
美容技術理論（公益社団法人日本理容美容教育センター監修） ワークブック（公益社団法人日本理容美容教育センター監修）	確認テスト 期末試験	30.0% 70.0%	まずテキストを読み、技術を積み重ねる大きな流れを把握すること。 講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

作成者:作本　智美

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運営管理（後期）		美容学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	作本 智美

授　業　の　概　要

経営者の視点（立場にたつという意味）での経営意識を持つ。美容室やそこで働く従業員をどのように管理し経営の目的を果たしていくか、そのための資金管理や人的資源管理、サービスの在り方について学ぶ。

授業終了時の到達目標

経営者が何を考えて経営を行っているのかを知ると同時に、求められる従業員としての姿が描けるようになる。また、国家試験の中で求められている、日本の社会保険、医療保険、雇用保険等の各種の制度について理解することができる。

実務経験有無	実務経験内容
無	

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	経営とは、経営者とは	経営者とは何かを知り、経営者の責任や経営の目的について学修する。
2	経営戦略	経営戦略の必要性と考え方について学修する。
3	理美容業の経営について	理美容業界の社会の変化とその中での理美容業の経営の現状について学修する。
4	資金の管理	資金管理の重要性と収支と損益について学修吸する。
5	会計の考え方	会計の考え方、税金の支払いについてを学修する。
6	人という資源	経営者の視点で、人を管理するということは具体的にどのようなことをやっていくのかを学修する。
7	給与・待遇・福利厚生	給与の設計や、対偶・福利個性など、従業員に直接関与する部分について学修する。
8	社会保険制度①	国民年金や厚生年金の仕組みについて理解する。
9	社会保険制度②	医療保険や国民健康保険、介護保険の制度について学修する。
10	社会保険制度③	雇用保険、労災保険について学修する。
11	キャリアプラン、安全な職場環境について	従業員としてのキャリアプランの重要性について学び、美容師としての健康管理についても学修する。
12	理美容業の健康問題	理美容業の健康問題にはどのようなものがあり、どのように対策していくのかを学修する。
13	サービスデザイン	美容室で提供するサービスの設計について、基本的な考え方、システムの設計について学修する。
14	サービス・マーケティング	理美容業のマーケティング及びその活用法について学修する。
15	サービスにおける人の役割	理美容業の接客について学ぶ。合わせてトラブルが発生した場合の対処法についても学修する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
運営管理 (公社)日本理容美容教育センター教科書	確認テスト 期末試験	30.0% 70.0%	まずテキストを読み、学修の大きな流れを把握すること。 教科書・講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

作成者:表　康子

		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習(ワインディング)		美容学科／1年	2025／前期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	60回	4単位（120単位時間）	必須	田中美紀/水本健一/泉谷愛子/表康子

授　業　の　概　要
美容師国家試験課題のワインディング実習を通して学修し、国家試験合格レベルの技術の修得を目指します。 ※ワインディングとはパーマをかけるときにロッドを髪に巻きつける技術。

授業終了時の到達目標
・2年次の国家試験に向けてワインディングの基礎技術が修得できる。 ・8月、9月に開催される学外コンテストに向けて30分以内でワインディングを完成させれる技術が修得できる。

実務経験有無	実務経験内容
有	田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する 泉谷・表は美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として5年以上サロンの運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修
実習の後にはその日の内容を復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	ワインディング概要説明・事前準備	道具の名称、セッティング方法、ウィックの濡らし方、コームの持ち方、オールバックのとかし方、縦スライスの取り方、横スライスの取り方について学修する。
3～4	ワインディング実習・事前準備	10ブロックの説明、正確な10ブロックについて学修する。
5～6	ワインディング実習・ブロッキング	10ブロックの復習を行い、スライスの取り方やシェープの仕方を学修する。上巻きの説明・デモ・上巻きの練習
7～8	【定期チェック1】 ワインディング実習・上巻きの練習	10ブロック10分　上巻きの復習　センターのロッドの配列を図解にて解説する。
9～10	ワインディング実習・上巻き・下巻きの練習	10ブロック7分　上巻きの復習・下巻きの説明・デモ・練習　センター巻いてみる
11～12	ワインディング実習・センター	10ブロック7分　上巻き・下巻きの復習　　センターデモ　1本1分目標に巻いてみる
13～14	ワインディング実習・センター	10ブロック7分　上巻き・下巻きの復習　　コツをつかむ
15～16	【定期チェック2】 ワインディング実習・上巻きの練習	BL7分＋センター25分(1本約90秒)
17～18	ワインディング実習・全頭のロッド配列	全頭のロッド配列・図解 BL7分＋センター20分（1本75秒）
19～20	ワインディング実習・センター・フロント～右バックサイド～サイド	10ブロック5分→センター20分（1本75秒） 右サイドデモ→右サイド巻き上げ
21～22	ワインディング実習・センター・右サイド・フロント～左バックサイド～サイド	10ブロック5分→センター16分→右サイド20分　（1本60秒）　左サイドデモ→左サイド巻き上げ
23～24	ワインディング実習・全頭	BL5分→センター16分→右20分→左17分（1本60秒）　W53分 完成後のバランスを学修する。
25～26	ワインディング実習・全頭	BL5分→センター13分→右16分30秒→左14分（1本50秒）W43分30秒 完成後のバランスを学修する。
27～28	ワインディング実習・全頭	BL5分→センター12分→右15分→左13分　（1本45秒）　W40分 完成後のバランスを学修する。

29～30	【定期チェック3】 ワインディング実習	BL5分・W40分 （1本45秒）
31～32	ワインディング実習・全頭　　ブロッキング5分ワインディング35分30秒	BL5分→センター10分30秒→右13分30秒→左11分30秒（約1本40秒）W35分30秒　完成後のバランスを学修する。
33～34	ワインディング実習・全頭	BL5分→センター10分30秒→右13分30秒→左11分30 （約1本40秒）W35分30秒　完成後のバランスを学修する。
35～36	ワインディング実習・全頭	BL5分→センター9分30秒→右11分30秒→左10分 （約1本35秒）W31分　　完成後のバランスを学修する。
37～38	ワインディング実習・全頭	BL5分→センター9分30秒→右11分30秒→左10分（約1本35秒）W31分 完成後のバランスを学修する。
39～40	ワインディング実習・全頭	BL4分→センター9分→右11分→左9分 （約1本33秒）W30分 完成後のバランスを学修する。
41～42	ワインディング実習・全頭	BL4分・W30分 （1本33秒） 完成後のバランスを学修する。
43～44	【定期チェック4】中間試験 ワインディング実習	ブロッキング4分、ワインディングを全頭30分で作成。完成後のバランスを学修する。
45～46	ワインディング実習・全頭30分	ブロッキング4分、ワインディング全頭を30分で作成。(1本33秒)
47～48	ワインディング実習・全頭30分	ブロッキング4分、ワインディング全頭を30分で作成。(1本33秒)
49～50	ワインディング実習・全頭30分	ブロッキング4分、ワインディング全頭を30分で作成。(1本33秒)
51～52	ワインディング実習	ブロッキング4分、ワインディング全頭を30分で作成。(1本33秒)
53～54	ワインディング実習・全頭27分	ブロッキング4分、1本30秒で巻くことを意識させる。完成後のバランスを学修する。
55～56	ワインディング実習・全頭27分	ブロッキング3分、1本30秒で巻く練習(W約26分30秒)。完成後のバランスを学修する。
57～58	ワインディング実習・全頭27分	ブロッキング3分、ワインディング27分。1本30秒で巻く練習。完成後のバランスを学修する。
59～60	ワインディング実習・全頭27分	期末試験目前練習　ブロッキング3分　ワインディング27分

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
ワインディング用具一式 美容技術理論（公益社団法人日本理容美容教育センター）	定期チェック1 定期チェック2 定期チェック3 定期チェック4 学期末試験	10.0% 10.0% 10.0% 10.0% 60.0%	

作成者:表　康子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習(ワインディング)		美容学科／1年	2025／後期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	田中美紀/水本健一/泉谷愛子/表康子

授　業　の　概　要

この科目では美容師国家試験課題のワインディング実習を通して学修し、国家試験合格レベルの技術の修得を目指します。
※ワインディングとはパーマをかけるときにロッドを髪に巻きつける技術。

授業終了時の到達目標

・2年次の国家試験に向けてワインディングの基礎技術が修得できる。
・8月のSPCコンテスト、9月の彦田コンテストに向けて30分以内でワインディングを完成させれる技術が修得できる。

実務経験有無	実務経験内容
有	田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する。 泉谷・表は美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する。 水本は美容サロンの店長として5年以上サロンの運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	ワインディング実習・BL3分/全頭25分	ブロッキング3分、ワインディング25分。作業速度を上げながら作業精度を保つことを学修する。
3～4	ワインディング実習・BL2分30秒/全頭23分	前期の復習を兼ねて全頭25分で完成させる。 時間内での精度を高める技術を学修する。
5～6	ワインディング実習・BL2分30秒/全頭23分	時間短縮を図る。 時間内での精度を高める技術を学修する。
7～8	【定期チェック1】 BL2分30秒/W23分	ブロッキング2分30秒・全頭23分のチェックを行う。
9～10	ワインディング実習・BL2分/全頭20分	10ブロックから全頭20分で作成。作業速度をさらに上げながら作業精度を保つことを学修する。
11～12	ワインディング実習　BL2分・W20分	前回の復習を兼ねて10ブロックから全頭22分で完成させる。 時間内での精度を高める技術を学修する。
13～14	ワインディング実習・22分 (BL2分・W20分)	全頭22分の総仕上げ。 基礎力の定着と仕上がりの安定化を学修する。
15	【定期チェック2】 ワインディング実習・全頭22分	これまでの復習として、全頭22分のチェックを行う。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
ワインディング用具一式 美容技術理論(公益社団法人日本理容美容教育センター)	定期チェック1 定期チェック2 期末試験	15.0% 15.0% 70.0%	

作成者:泉谷　愛子

科　目　名	学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習（アップ基礎）	美容学科／1年	2025／前期	実習

授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	泉谷　愛子

授　業　の　概　要

アップスタイルに必要な基礎知識を学び、サロンに出た時に役に立つ技術も学修する。
夜会巻きの基礎スタイルでの道具の取り扱いでは、美容師としての必要な心構えも学修する。
また、ホットカーラーの巻き方も学ぶため、アシスタントとしての技術も合わせて身につくことが出来る。

授業終了時の到達目標

アップスタイルの基本技術を体得しボリューム感や丸みの調整ができるようになる。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	アップスタイルの概論と一側結びの実践練習	道具の名称、スタイリング剤の使い方、道具の使き方、髪の毛にしっかり慣れてもらう。レクチャーと実践練習
3～4	アップスタイルの概論と下準備の実践練習	ホットカーラーの巻き方と実践練習
5～6	夜会巻き実践①	夜会巻きのブロッキングの手順、土台の作り方、 ピンの止め方、すき毛の位置と作り方
7～8	夜会巻き②	抱き合わせのレクチャーと実践練習 面の出し方に注意して作る
9～10	夜会巻き③	夜会巻きの完成形のレクチャーと実践練習
11～12	夜会巻き④	夜会巻きを完成させる 各部分事に作っていく。苦手な所を練習する
13～14	夜会巻き⑤	校内コンテストを意識させたタイムトライアルでの実践練習。ホットカーラーを巻いての下準備
15	夜会巻き確認テスト	50分での校内コンテスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
アップ道具一式 美容技術理論1（公益社団法人　日本理容美容教育センター）	確認テスト	100.0%	

作成者:泉谷　愛子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習 （メイク基礎）		美容学科／1年	2025／前期	実習
授業時間	回数	授業時数／単位	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	泉谷　愛子／田中　美紀

授　業　の　概　要

相手にメイクアップを施す際のマナーをはじめメイクアップの基本的な流れ、基礎知識を学ぶ。サロンに出た際に役に立つ技術を学修する。

授業終了時の到達目標

メイクアップの目的・効果を基本的な手順を理解し、フルメイクを仕上げられるレベルに到達する。

実務経験有無	実務経験内容
有	泉谷はサロンで15年以上運営及び経営に従事する 田中はサロンで5年以上、運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	学修内容
1～2	メイクアップの必要性、心得、準備方法、手入れ方法、基本プロセス	メイクアップの必要性、心得を身につける。準備、片付け、手入れの仕方を修得する。メイクアップ基本プロセスを理解する
3～4	スキンケア・ベースメイクアップ学習	スキンケア、ベースメイクアップの目的を理解する。コンディションに対応するテクニック。肌トラブルを目立たなくする。
5～6	ファンデーション・パウダー・コントロールカラー	ファンデーション・パウダーテクニックを学び、崩れにくいメイクアップを学修する。ベースメイクアップを学修する。
7～8	ハイライト・ローライト	ハイライトやローライトの目的、効果、使い方を学修する。
9～10	アイブロウ・アイメイクアップ	目的と種類、色・形とイメージを考える ポイントメイクアップの正しい手順を学修する。
11～12	アイブロウ・アイメイクアップ・チーク・リップ	目的と種類、色・形とイメージを考える ポイントメイクアップの正しい手順を学修する
13～14	作品練習①	目的、効果を理解し正しい手順で最終作品を作る
15	まとめ	目的、効果を理解し正しい手順で最終作品を作る

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
アップ道具一式 美容技術理論1（公益社団法人　日本理容美容教育センター）	提出物 授業態度 期末試験	30.0% 20.0% 50.0%	

作成者:表　康子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習（カット基礎）		美容学科／1年	2025／前期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	水本健一／表康子／ 田中美紀／泉谷愛子

授　業　の　概　要
この科目ではベーシックカットの一つであるワンレングスカット・グラデーションカット・レイヤーカットを学修することで、カットの基礎と理論を理解しその後のカット技術の習熟度を高めることにつながる基礎となる実習です。

授業終了時の到達目標
ワンレングスカット・グラデーションカット・レイヤーカットができるようになる。 ヘアデザインを行うための基礎知識が身につく。 その他のヘアスタイルに発展できる基礎力が身につく。

実務経験有無	実務経験内容
有	泉谷・表は美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として5年以上サロンの運営及び経営に従事する。 田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修
実習の前後には予習復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	カッティングとは （ベーシックカット）	正しくカッティングするために・カットの概要を学修する。
3～4	カッティング実践・ワンレングス（平行）	ワンレングスのとかしつけ。バックを床と垂直にとかしつけ床と並行にカットすることを学修する。
5～6	カッティング実践・ワンレングス（平行）	両サイドのフロントのコーミングの仕方を説明。 サイドのカットを学修する。バランスを学修する。
7～8	カッティング実践・グラデーション	グラデーションカットとは？上が長くて下が短い。 スライスの取り方
9～10	カッティング実践・グラデーション	どこのセクションの髪をどれだけ持ち上げるか、どのくらいの角度で持ち上げるか、どの角度で切っていくかを学修する。
11～12	カッティング実践・レイヤー	レイヤーカットとは？下が長くて上が短い。 スライスの取り方
13～14	カッティング実践・セイムレイヤー	パネルを頭皮に対して直角（オンベース）に引き出すことを学修する。
15	カッティング実践・まとめ	確認テスト（課題3つの中から）

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
美容技術理論（日本理容美容教育センター監修）	実習・実技評価 実習への取組姿勢	70.0% 30.0%	

作成者:表　康子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習（サロンワーク基礎）		美容学科／1年	2025／前期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	表康子/水本健一

授　業　の　概　要

この科目ではヘアサロン監修のシャンプーマニュアルで実習を行うことでサロン内で信頼されるアシスタント、お客様に支持される即戦力の（技術力）と（人間力）を身につけたアシスタントを目指します。

授業終了時の到達目標

各サロンの手順に従って、シャンプーができる。
シャンプーの際の手の動かし方や力の入れ方が理解できる。

実務経験有無	実務経験内容
有	表は美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として5年以上サロンの運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	シャンプー・概要説明・手の動かし方。 ウィッグ。ドライ手順・方法	マニュアルをベースにウイッグを使って手の動きを確認。 サイドシャンプーの感覚を学修する。ドライ。
3～4	シャンプー①ウィッグ ブロー手順・方法	まずは髪の毛を均等に濡らす練習。声のかけ方や水が顔にはねない角度などを学修する。デンマンブロー。
5～6	シャンプー②相モデル ドライ・ブロー	前回の復習をしながら1シャンの練習。 利き手と逆の手の動かし方を学修する。
7～8	シャンプー③ ドライ・ブロー	1・2シャン目のサイドシャンプーを練習。 手の動かし方や力の入れ方の違いを学修する。
9～10	シャンプー④ ドライ・ブロー	1・2シャン目のサイドシャンプーを練習。 ホットタオルを学修する。
11～12	シャンプー⑤ ドライ・ブロー	1・2シャン目のサイドシャンプーを練習。 トリートメントを学修する。
13～14	接客①シャンプー⑤ ドライ・ブロー	接客～シャンプーブースまでのご案内から、サイドシャンプーの一連の動きを通しで行う（接客～シャンプー重点）
15	接客②シャンプー⑥ ドライ・ブロー	接客～シャンプーブースまでのご案内から、サイドシャンプーの一連の動きを通しで行う（接客～ブロー重点）

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
シャンプーマニュアル（ヘアサロン監修）	実習・実技評価 確認テスト	80.0% 20.0%	授業の前後には、予習復習をして習熟を図る事。

作成者:表　康子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容実習（サロンワーク基礎）		美容学科／1年	2025／後期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	表康子/水本健一

授　業　の　概　要

サロンでの学外実習を通じ、美容師の仕事の実態を知る。
現場での職場体験を通じ、美容師に必要なスキルを把握し、今後の学修に活かす。

授業終了時の到達目標

美容師の仕事に必要なスキルを理解し、今後の学校生活において自己が改善すべき課題、高めるべきスキルについて理解する。

実務経験有無	実務経験内容
有	表は美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として5年以上サロンの運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修

日々のサロンの実習内容を振り返り、翌日の改善につなげる

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	学外実習（導入）	サロン実習に向かうための心構え、最低限必要なスキルについてチェックする。
3～6	学外実習（1日目）	サロンワークを通じて美容師の現場の仕事について理解を深める。重点項目として挨拶、笑顔を心がける
7～10	学外実習（2日目）	サロンワークを通じて美容師の現場の仕事について理解を深める。重点項目として敬語の使い方を心がける
11～14	学外実習（3日目）	サロンワークを通じて美容師の現場の仕事について理解を深める。重点項目として積極性・チームワークを意識する
15	学外実習振り返り	学外実習の振り返りから、今後の自分の課題を把握する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
自作教材（導入プリント） 研修日誌	サロン評価 研修日誌	50.0% 50.0%	

作成者:金田沙樹

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容総合技術 （共通技術）		美容学科／1年	2025／後期	実習
授業時間	回数	授業時数／単位	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60単位時間)	必須	田中/水本/泉谷/表/金田/北野

授　業　の　概　要

1-1～1-5
美容技術においての知識を科学的、サービスを実践する基本と態度を学修、工夫と創造の能力を身につけさせる。髪・カウンセリング・ヘアケアアドバイスの正しい方法と知識を実際に即して考える。優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的見識によって把握されなければならないことを強調する。
2-1～2-15
ネイル…サロンワークで通用するネイルケア、ネイルアートに関する技術及び知識を学修する。
3-1～3-10
スタイリングマップ…骨格や肌の色に合わせたデザインを学修し、お客様への提案力を身につけることにより、自己の美容に対する意識を高め、業界から必要とされる美容人になる知識の習得を目指します。

授業終了時の到達目標

1-1～1-5
ヘアケアマイスター　プライマリー合格。美容師としての必要知識と同時に接客業を意識した仕事が出来るようになる。
2-1～2-15
ネイル…ネイリスト技能3級検定合格の知識と技能が身につく
3-1～3-10
スタイリングマップ…スタイリングマップ検定の取得。お客様に最適なステイリングを提案できるようになり、お客様の満足度を高める知識が身につく

実務経験有無	実務経験内容
無	

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	学修内容
1	第1章　毛髪化学編①	毛髪の構造と働きを学修
2	第1章　毛髪化学編②	タンパク質とは　PHと毛髪の4つの結合 毛髪のダメージの原因　毛髪のダメージのプロセスを学修
3	第2章　毛髪のカウンセリング	毛髪のカウンセリングに対して　お客様の(察知)&(デザイン）（問診・視診・触診）髪質を見極める クセ毛について　髪質と施術時間の関係　ダメージレベル
4	第3章　ヘアケア剤	界面活性剤について　シャンプー剤の成分と働き、効果 トリートメント剤の成分と働き、効果 スタイリング剤の成分と働き、効果　ホームケアアドバイス
5	プライマリー過去問	過去問100問試験 60分
2-1～2-2	ネイル教材配布・説明・検定について	ネイルの需要・教材内容の把握・検定の必要性など
2-3～2-4	ネイル教材配布・説明・検定・セッティング	爪の構造と動き・テーブルセッティング・衛生面・手指消毒
2-5～2-6	基本手順①	ファイリング・カットスタイル・ウッドスティック削り プッシュアップの重要性とやり方（甘皮とは？などの皮膚学）
2-7～2-8	基本手順②	ファイリング・カットスタイル・ウッドスティック削りプッシュアップ・ガーゼクリーンまでを行つ。
2-9～2-10	基本手順③	ネイルの技術体系・爪の構造と働き・クリーンナップ
2-11～2-12	基本手順④	ネイルの歴史・クリーンナップ（ニッパー）

2-13 ～2- 15	基本手順⑤　確認テスト2	消毒法・カラーリングのやり方（ベース・カラー・トップ）ポリッシュオフ法・ポリッシュの扱い方・修正の仕方カラーリング　　確認テスト
3-1～ 3-4	スタイリングマップセルフチェック	好きな色、形、素材、スタイリングイメージのグループを学修する。
3-5～ 3-8	物、人の分析分類 内面分析分類	色の理論、似合わせ、形の理論、似合わせを学び提案の幅を学修する。思考、言動の分析・分類。内面も分析する事で異なる視点からの似合わせを提案し学修する。
3-9～ 3-10	スタイリングマップの総まとめ	総合的に演習を行うことでの振り返りと確認テスト

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
ヘアケアマイスターブック（日本ヘアケアマイスター協会） ネイル…美容技術理論2（日本理容美容教育センター監修） スタイリングマップ…スタイリングマップ検定テキスト	ネイルテスト 確認テスト2 プライマリー確認テスト 期末試験	50.0% 50.0% 30.0% 70.0%	

作成者:水本健一

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容総合技術 (サロンワーク応用)		美容学科／1年	2025／後期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60単位時間)	必須	表/水本/金田/泉谷/田中

授　業　の　概　要

サロンでの学外実習を通じ、美容師の仕事の実態を知る。
現場での職場体験を通じ、美容師に必要なスキルを把握し、今後の学修に活かす。

授業終了時の到達目標

美容師の仕事に必要なスキルを理解し、今後の学校生活において自己が改善すべき課題、高めるべきスキルについて理解する。

実務経験有無	実務経験内容
有	泉谷・表は美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として５年以上サロンの運営及び経営に従事する。 田中は美容サロンで5年以上従事する

時間外に必要な学修

日々のサロンの実習内容を振り返り、翌日の改善につなげる

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	カラー実習グレイ①	理論。ボディーモーションでの動き。ウィッグにてエアー塗布。 ハケの使い方、塗布の仕方、スライスの取り方
3～4	カラー実習グレイ②	ウィッグにてトレーニングクリーム塗布。 ハケの使い方、塗布の仕方、スライスの取り方
5～6	カラー実習グレイ③	ウィッグにてトレーニングクリーム塗布。 均一な塗布量。チェックの仕方。優しく丁寧にきれいな仕事を目指す
7～8	カラー実習ファッション①	理論。ウィッグにてトレーニングクリーム塗布。ハケの使い方、塗布の仕方、スライスの取り方
9～10	カラー実習ファッション②	ウィッグにてトレーニングクリーム塗布。 均一な塗布量。チェックの仕方。優しく丁寧にきれいな仕事を目指す
11～12	スタイルパーマ実習①	ウィッグにてパーマ。ヘルプ、薬液塗布
13～14	スタイルパーマ実習②	ウィッグにてパーマ。ヘルプ、薬液塗布
15～16	グレイカラー・スタイルパーマ実習	カラーグレイ塗布・スタイルパーマ巻き試験
17～18	バックシャンプー①	マニュアルをベースに手の動きを確認。 バックシャンプーの感覚を学修する。
19～20	バックシャンプー①	マニュアルをベースに手の動きを確認。 バックシャンプーの感覚を学修する。
21～22	バックシャンプー②	まずは髪の毛を均等に濡らす練習。 声のかけ方や水が顔にはねない角度などを学修する。
23～24	バックシャンプー③	シャンプーの手順・指の使い方・手の使い方・身体の使い方を学修する。
25～26	バックシャンプー④	ヘッドスパの学修
27～28	サイドシャンプー・ヘッドスパ①	保護者感謝会に向けて準備
29～30	サイドシャンプー・ヘッドスパ②	保護者感謝会に向けて準備

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
美容技術理論（公益社団法人日本理容美容	授業態度	30.0%	

教育センター監修)	期末試験	70.0%	

作成者:表　康子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容総合技術 （カット応用Ⅰ）		美容学科/1年 ヘアスタイリスト専攻	2025／後期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	選択	表康子/水本健一

授　業　の　概　要

日本のトップ技術を、野沢道生から学ぶ。
世界で活躍するヘアプロデューサー、野沢道生が完全監修した8スタイルのカット技術テキストを使用し、野沢道生本人から直接指導を受けられます。
8スタイルのカット技術をマスターし、受講後は初級スタイリストとしてディプロマが授与されます。

授業終了時の到達目標

1年次、8スタイルの中の4スタイルのカットができる（スタイルの1つワンレングスは別科目で履修）。
その4スタイルのスタイリングができる。

実務経験有無	実務経験内容
有	表はサロンで15年以上サロンの運営及び経営に従事する。 水本は美容サロンの店長として５年以上サロンの運営及び経営に従事する。

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	ラウンドグラデーション①	ラウンドグラデーションの構成、切り方について学修する。 デモンストレーションを見て実習を行う（ウイッグ①）。
3～4	ラウンドグラデーション② 野沢ゼミ	野沢道生指導のもと実習を行う（ウイッグ②）。
5～6	マッシュ① ラウンドグラデーション③	ラウンドグラデーションの復習。 マッシュの構成、切り方について学修する。 デモンストレーションを見て実習を行う（ウイッグ③）。
7～8	マッシュ② 野沢ゼミ	野沢道生指導のもと実習を行う（ウイッグ④）。
9～10	ショートレイヤー① マッシュ③	マッシュの復習。 ショートレイヤーの構成、切り方について学修する。 デモンストレーションを見て実習を行う（ウイッグ⑤）。
11～12	ショートレイヤー② 野沢ゼミ	野沢道生指導のもと実習を行う（ウイッグ⑥）。
13～14	マッシュ④ ショートレイヤー③	初級スタイリスト検定に向けて難易度の高いマッシュとショートレイヤーを復習（ウイッグ⑦）。
15	初級スタイリスト検定	履修した4スタイルの中から1スタイルが検定課題となる（ウイッグ⑧）。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
野沢テキスト（KBG出版）	授業態度 実習・実技評価	30.0% 70.0%	

作成者:表　康子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容総合技術 （アシスタント実務Ⅰ）		美容学科/1年 ヘアスタイリスト専攻	2025／後期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60単位時間）	選択	水本健一/表康子/金田沙樹

授　業　の　概　要

美容師の仕事といえばまずはアシスタントもスタイリストも共通するのがサロンでの業務です。
スタイリストは業務を全て一人でこなすのに対し、アシスタントはスタイリストのサポート役にまわります。
サロンでの１日を知る。

授業終了時の到達目標

接客業務、特にアシスタントの業務内容を理解し、実際の場で活用できる。
お客様に対する気配りの在り方が身に付く。

実務経験有無	実務経験内容
有	水本は美容サロンの店長として５年以上サロンの運営及び経営に従事する 表はサロンで15年以上サロンの運営及び経営に従事する 金田は美容サロンで2年以上従事する

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	学内サロンオープンに向けて①	ブライダル実務合同、ディスカッション アシスタントとは
3～4	学内サロンオープンに向けて②	サロンワーク基礎復習
5～6	学内サロンオープンに向けて③	スタイリスト専攻ゴール説明 内容提示、ルール説明。サイドシャンプー
7～8	学内サロンオープンに向けて④	サロン決め、コンセプトについて
9～10	学内サロンオープンに向けて⑤	接客ロープレ・相モデル サイドシャンプー、ドライ、ブロー
11～12	学内サロンオープンに向けて⑥	接客ロープレ・相モデル サイドシャンプー、ドライ、ブロー
13～14	学内サロンオープンに向けて⑦	接客ロープレ・レセプション（お出迎え・お見送り） 相モデル・サイドシャンプー、ドライ、ブロー
15～16	学内サロンオープンに向けて⑧	接客ロープレ・相モデル ヘッドスパ（頭のつぼについて）ドライ、ブロー
17～18	アイロンワーク、アレンジ	コテの基本的な使い方を修得し、ウイッグ使用して内巻き、外巻きをアレンジをマスターする。
19～20	学内サロンオープンに向けて⑨	接客ロープレ・レセプション～お見送りまで 相モデルヘッドスパ、サイドシャンプー、ドライ、ブロー
21～22	学内サロンオープンに向けて⑩	接客ロープレ・相モデル ヘッドスパ、サイドシャンプー、ドライ、ブロー
23～24	店販の知識	商材の知識を学修する。
25～26	学内サロンオープンに向けて⑪	接客ロープレ・相モデル ヘッドスパ、サイドシャンプー、ドライ、ブロー
27～28	学内サロンオープンに向けて⑫	学内サロンオープン①

29～30	学内サロンオープンに向けて⑬	学内サロンオープン②		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
公益財団法人　日本理容美容教育センター 美容技術理論１		授業態度 実習・実技評価	30.0% 70.0%	

作成者:泉谷　愛子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容総合技術 （ブライダルスタイリスト実務Ⅰ）		美容学科／1年 ブライダルヘアメイク専攻	2025／後期	実習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	泉谷　愛子

授　業　の　概　要

ブライダルヘアメイクを志す者としてヘアスタイル技術の応用編をを学修する
外部講師による婚礼美容技術を習得し、作品作りを行う
お客様にブライダルヘアメイクをご提案できる技術を身につける

授業終了時の到達目標

結婚式えのヘアスタイルの応用技術を身につける
婚礼美容技術を身に付け、ギフトウェディングや2年次のコンセプトウエディングに活かす。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修

実習の前後には予習復習をして習熟を図る

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	洋装スタイルのベース作り①	コテの使い方、巻き方、ホットカーラーの巻き方
3～4	洋装スタイルのベース作り②	コテの使い方、巻き方、ホットカーラーの巻き方 人頭で練習
5～6	洋装スタイル① ハーフアップスタイル	コテの使い方、巻き方、ホットカーラーの巻き方 洋装花嫁スタイルを作る ハーフアップスタイルを作る
7～8	洋装スタイル ハーフアップスタイル	ハーフアップスタイルの確認テスト（40分） 人頭で実践練習
9～10	洋装スタイル② シニヨンのスタイル	シニヨンのスタイルを作る
11～12	洋装スタイル シニヨンのスタイル	シニヨのスタイルを作る　タイムトライアルでの実践練習　シニヨンのスタイルの確認テスト（40分）
13～14	洋装スタイル③ あみおろしスタイル	あみおろしスタイルを作る
15	洋装スタイル あみおろしスタイル	あみおろしスタイルを作る　タイムトライアルでの実践練習　あみおろしのスタイルの確認テスト（40分）

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
アップ道具一式 美容技術理論1（公益社団法人　日本理容美容教育センター）	実習・実技評価 取組姿勢	70.0% 30.0%	

作成者:西出　華蓮

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容総合技術 （メイク応用）		美容学科／1年 ブライダルヘアメイク専攻	2025／後期	実習
授業時間	回数	授業時数／単位	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60単位時間)	選択	西出　華蓮

授　業　の　概　要

メイクアップアーティストとして求められるサービス（奉仕・貢献・世話）や、ホスピタルティ（思いやり・やさしさ・歓待）、マナーに関する基本を理解する。・人間性の構築、技術スキルの基本的な流れを学び、基礎的理論の理解、フェイシャルやメイクの技術を取得した総合力を養う。

授業終了時の到達目標

相手に合わせたスキンタイプ別の状態把握、イメージメイクアップ、メイクアップカルテの作成が出来る。・アーティストとして現場に立つことを踏まえ、プロとしての意識を持つことや接客に取り組む姿勢の自覚を持つことが出来る。・ICAM Lv.1 ICAMベーシックコースの取得が出来る。

実務経験有無	実務経験内容
有	現在、サロンにて運営及び経営に従事している

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	学修内容
1～2	ベーシックメイクアップについて・メイクアップの基本プロセス・顔分析	道具の大切さ、衛生面を徹底的に習得。顔の理想的なバランス、パーツバランスと印象、輪郭と印象を理解
3～4	皮膚の基礎知識・色の基礎知識。パーソナルカラー	基礎知識・シーズンカラー別パーソナルタイプによるメイクアップポイントを理解する。
5～6	スキンケア、クレンジング法・ベースメイクアップ理論	スキンケアやクレンジング方法、ベースメイクアップの流れや種類を習得
7～8	ベースメイクアップ ① 実践	相手への配慮、手順、肌の色調、皮膚感を美しく整えることを習得
9～10	アイメイクアップ① 理論、実践	アイメイクアップの手順や種類を習得・4種類の基本アイカラーテクニックを習得
11～12	アイメイクアップ② 実践 アイブロウ 理論、実践	アイライン、マスカラ、ビューラー、アイブロウの形やラインを美しく仕上げる手順や種類、基本テクニックを習得
13～14	チーク・リップ・ハイライト・シェーディング、実践・トータルバランス	シーク、リップ、ハイライト、シェーディングの手順や種類を習得し基本テクニック実践
15～16	フルメイクアップ①	ベーシックメイクアップを習得
17～18	フルメイクアップ②	ポイントの強弱、メリハリのあるメイクアップを習得
19～20	曲線・直線バリエーション①	曲線的なメイクテクニックが与える印象と効果を理解する。
21～22	曲線・直線バリエーション②	直線的なメイクテクニックが与える印象と効果を理解する。
23～24	ベーシックメイクアップ実践①	イメージメイクアップ（可愛い・キュート）のメイクの特徴を学修する。
25～26	ベーシックメイクアップ実践②	イメージメイクアップ（優雅・セクシー）のメイクの特徴を学修する。
27～28	ベーシックメイクアップ実践③	イメージメイクアップ（優雅・セクシー）のメイクの特徴を学修する。
29～30	ベーシックメイクアップ実践④	イメージメイクアップ（知的・クール）のメイクの特徴を学修する。

教科書・教材	成績評価の方法	評価率	授業時間外の学修
・ICAM国際ライセンス　メイクアップテキスト 【一般財団法人　ICAM日本支部】	・期末試験 ・課題提出	70.0% 30.0%	各講義で実施した内容をノートやプリントを使って復習。各日、メイク練習ごに言われたアドバイスをノートに記録する。

作成者:表　康子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容演習		美容学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	田中美紀/水本健一/泉谷愛子/表康子/金田沙樹

授　業　の　概　要

一人一人個性の違いを見つけ出し、タイプ別にヘアー、メイク、衣装を考察する。
「サロンに通用する人材」をテーマに行う。美容師の幅を広げる狙いで、フォトの授業を行う。
サロンフォト、クリエイティブフォトを通し、フォトコンに参加。

授業終了時の到達目標

即戦力となる為、必要な技術の習得を実現する。
撮影技術と共にトータルビューティーの基礎を身につける事が出来る。

実務経験有無	実務経験内容
有	田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する 泉谷・表は美容サロンで15年以上運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として５年以上サロンの運営及び経営に従事する。 金田は美容サロンで2年以上従事する

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	フォト撮影① （撮影技術を見る）	学外コンテストに向けて、解説/モデル決定。合わせて大会のコンセプトを知る。
3～4	フォト撮影② （イメージを作る）	学外コンテストに向けて絵コンテ作成。モデルを見て、ヘアデザイン・衣装、メイクを考える
5～6	フォト撮影③ （イメージ・作品を固める）	学外コンテストに向けて、絵コンテ最終仕上げ フォトの構図・色・バランス・加工方法を仕上げる。
7～8	フォト撮影④ （実際に撮影）	学外コンテストに向けて準備物を用意・仕込み・撮影 スマートフォンを使って撮影・加工（サロンスタイル）
9～10	フォト撮影⑤ （実際に撮影）	学外コンテストに向けて準備物を用意・仕込み・撮影 スマートフォンを使って撮影・加工（クリエイティブ①）
11～12	フォト撮影⑥ （実際に撮影）	学外コンテストに向けて準備物を用意・仕込み・撮影 スマートフォンを使って撮影・加工（クリエイティブ②）
13～15	フォト撮影⑦ （コンテスト出品作品を作成）	学外コンテストに向けて準備物を用意・仕込み・撮影 撮影機材を変えて撮影。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
美容実習１　（公社）　日本理容美容教育センター	実習・実技評価 課題・レポート	70.0% 30.0%	授業の前後には予習、復習して習熟を図る。

作成者:表　康子

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
美容演習		美容学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30単位時間）	必須	田中美紀/水本健一/泉谷愛子/表康子/金田沙樹

授　業　の　概　要

一人一人個性の違いを見つけ出し、タイプ別にヘアー、メイク、衣装を考察する。
「サロンに通用する人材」をテーマに行う。美容師の幅を広げる狙いで、フォトブック作成を行う。
フォトコンに参加。

授業終了時の到達目標

即戦力となる為、必要な技術の習得を実現する。
撮影技術と共にトータルビューティーの基礎を身につける事が出来る。

実務経験有無	実務経験内容
有	田中は美容サロンで5年以上運営及び経営に従事する 泉谷・表は美容サロンで20年近く、運営及び経営に従事する 水本は美容サロンの店長として５年以上サロンの運営及び経営に従事する。 金田は美容サロンで2年以上従事する

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1～2	フォトブック作成① イメージ決定	フォトブック作成に向けてイメージ決定 ヘアデザイン・衣装、メイク/相モデル決定。
3～4	フォトブック作成② 相モデルヘアメイク撮影1回目	相モデル、ヘア、メイク、撮影 フォトコンテストに出品
5～6	フォトブック作成③ 相モデルヘアメイク撮影2回目	相モデル、ヘア、メイク、撮影 フォトコンテストに出品
7～8	フォトブック作成④ 相モデルヘアメイク撮影2回目	相モデル、ヘア、メイク、撮影 フォトコンテストに出品
9～10	フォトブック作成⑤	フォトブック作成
11～12	フォトブック作成⑥	フォトブック作成
13～15	フォトブック作成⑦	フォトブック作成

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
美容実習１　（公社）　日本理容美容教育センター	実習・実技評価 課題・レポート	70.0% 30.0%	授業の前後には予習、復習して習熟を図る。

作成者:作本　智美

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
キャリアデザイン		1年	2025/通年	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60単位時間）	必須	馬渡　友子

授　業　の　概　要

専門学生生活を有意義に過ごすための知識やルールを習得し、変化の激しい社会に自信を持って出ていけるよう、自律的な自己成長につながる行動様式を学ぶ。自己を知り、社会に対する視野を広げながら、効果的な目標設定・行動計画力・振り返り力を身につけていく。自分のキャリアについて考える事、今の自分について自己理解を深める事、そして将来の自分を考えることを目的とします。

授業終了時の到達目標

・専門学校生活を充実させるための目標を設定し、目標実現のための行動がとれるようにする。
・自分自身の目標や社会に出るまでに延ばしたい力を明らかにし、計画立案・行動を試みることができる。
・自分自身（特長・価値観・専門学校で学ぶ理由など）を理解し、他者に表現できる

実務経験有無	実務経験内容
無	

時間外に必要な学修

講義ノート等により、予習・復習につとめ、授業の習熟を図ること。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	アカデミックリテラシー① KBG人財力とは（理事長講話）	「KBGグループの人材育成の意義や学生生活における心構えの具体例」を加え、具体的な例を示すことで理解を深める。
2	アカデミックリテラシー② 専門学生としてのルール	学生生活の手引き解説、規範・ルールの説明 受講姿勢など
3	キャリアデザイン① 自己理解：自己紹介	自己理解の方法を知り、グループワークを通じ、人との関わり方や社会人としての「人間力」の基盤、自己紹介を通じたコミュニケーション能力の向上を学修する。
4	キャリアデザイン② 自己理解：価値観	自己理解のため、自信が大切にしている価値観をグルプワークを通じ理解する
5	キャリアデザイン③ 自己理解：価値観・目標設定	キャリアプランの作成。2年間の目標設定と計画を作成する。「学生時代にやりたいこと」を明確にする
6	キャリアデザイン④ 自己理解：自己分析	グループディスカッションの手法を学び、自己理解を深める。MBTIやBig5などの活用方法と結果をどのように学生生活に反映されるかを学習する。
7	キャリアデザイン⑤ 自己理解：他己分析	自己理解の方法を知り、実践する（ジョハリの窓の作成） プレゼンテーションの手法を学び、作成する
8	キャリアデザイン⑥ 自己理解：他己紹介　プレゼン発表	わかりやすく伝える力を習得する
9	キャリアデザイン⑦ 自己理解：アセスメントの実施	アセスメントを活用し、自己理解を深める
10	アカデミックリテラシー③ 論理的思考、文章力の強化	論理的な思考法のフレームワークを学び、それを文章に反映させる技術を習得する
11	キャリアデザイン⑧ 自己理解	ライフラインチャート（自分史）作成
12	キャリアデザイン⑨ 自己理解	アセスメント結果を活用し、自己PRの作成をする
13	キャリアデザイン⑩ 業界・企業研究	「働くとは？」グループディスカッションを通し職業倫理を深めます

14	キャリアデザイン⑪社会について考える：持続可能なキャリアデザイン	経産省的永続的自力学習や生き抜く力の重要性を学修し、次世代の人材となる基盤を身につける。学生評価制度の解説
15	キャリアデザイン⑩ 業界・企業研究×自分	自分が求めるものと起業が求めるモノのギャップを認識し、自分の強みと伸びしろを理解する
16	スタートアップセミナー① 成人と社会人のキホン	KBG独自の取組み説明、学生総合評価制度、産学共同教育など。社会人の心構え、ふるまい、学ぶ姿勢、教養の重要性など、主に心の有り様を学修し、意識改革を行う
17	スタートアップセミナー②	就職活動の流れ全般の解説やOBOG講話やスケジュール管理や事前準備の詳細を確認する。
18	スタートアップセミナー③	求人票の見方、社会保障制度等について
19	マネーリテラシー講座 将来の資産形成と管理	将来のキャリアのためのお金の使い方や給料、投資や貯蓄、リスク管理の基本について
20	コンプライアンス・労働社会についてメンタルヘルス	ストレスとメンタルヘルスについて 社会で
21	履歴書・ES作成解説①	書き方（手法）、言葉遣い、ビジネスマナー
22	履歴書・ES作成解説②	文章構築
23	面接対策①	手法・所作
24	面接対策② 実践的ロールプレイと短文回答練習	1問1答、1分スピーチ、ロープレ演習 模擬面接やフィードバックを通じた改善点の発見
25	面接対策③	見られ方講座 就活メイク・スーツの着こなし、証明写真撮影
26	面接対策④	面接指導・実践
27	面接対策⑤	面接指導・実践
28	企業説明会 1-1	協力企業による企業合同説明
29	企業説明会 1-2	協力企業による企業合同説明
30	企業説明会 1-3	協力企業による企業合同説明

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
KBGオリジナルテキスト	前期末試験 後期試験	50.0% 50.0%	

作成者:小島　光世

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
接遇・マナー		美容学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	授業時数／単位	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30単位時間)	必須	小島　光世

授　業　の　概　要

この授業では、ビューティ・コーディネーターとしてのホスピタリティと仕事のスキル、ビューティーコーディネーターの仕事について、ビューティ・コーディネーターに必要な美容知識を学修します。

授業終了時の到達目標

・ビューティ・コーディネーターとして必要なホスピタリティに関する知識を修得する。
・サロンにおける基本的な接客のマナーを身に付ける。
・サロンにおけるフロアマネジメントについて理解する。
・接客をする上で必要な美容知識を修得する。

実務経験有無	実務経験内容
有	美容サロンで20年近く、運営及び経営に従事する

時間外に必要な学修

テキストと各授業の終わりに実施する確認テストでしっかりと復習を実施してください。

回	テ　ー　マ	学修内容
1	「ビューティ・コーディネーターの仕事とは」美容業におけるビジネスキャリア	社会人としての職業意識や仕事の取組み方を学び、社会人としての基本的な考えと美容業で働くということについて理解を深める
2	サロンにおけるビジネスキャリア	社会人として、美容業界ではたらくことの心構えについて学ぶ
3	ホスピタリティを発揮するビジネスコミニュケーション	ホスピタリティとそれを発揮するビジネスコミュニケーションについて学ぶ
4	サロンでの社内のコミニュケーション	職場内のコミニュケーションと職場での基本的なマナー・ルールについて学ぶ
5	接客の基本と言葉遣い、電話対応の基本	接客の基本的なマナー、言葉遣い、電話応対の基本を学習し、ロールプレイングなどを通して習得を目指す。
6	名刺交換とサロンのメディア活用	名刺交換の基本とサロンではどのようなメディアを活用していくかを学習し、理解を求める
7	ビューティ・コーディネーターの仕事①	ビューティ・コーディネーターの仕事にはどのようなものがあるかを学ぶ
8	ビューティ・コーディネーターの仕事②	ビューティ・コーディネーターとしてお客様に提案するための美意識やファッションについて学ぶ
9	ビューティ・コーディネーターの美容知識①	ビューティ・コーディネーターとして最低限備わるべき美容基礎理論や美容メニューの基礎知識などを学ぶ
10	ビューティ・コーディネーターの美容知識②	ビューティ・コーディネーターとして最低限備わるべき美容基礎理論や美容メニューの基礎知識などを学ぶ
11	問題演習①	問題演習を通じてこれまで学んできた学習への理解を深める
12	問題演習②	問題演習を通じてこれまで学んできた学習への理解を深める
13	ビューティ・コーディネーターの仕事実践①	ビューティ・コーディネーターの仕事を理解し、実際に接客、カウンセリングを行い理解を深める
14	ビューティ・コーディネーターの仕事実践②	ビューティ・コーディネーターの仕事を理解し、実際に接客、カウンセリングを行い理解を深める
15	総まとめと受験対策	美容業で働くことを理解し、実務検定試験にむけて理解を深める

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
jbcaビューティビジネス実務検定試験テキスト	期末試験	70.0%	
	確認テスト	30.0%	